

授業科目名	和文：地球の環境と資源 IV A—地層の話— 英文：Global Environment and Resources IV A:Introduction to Geological Sciences				時間割	水 9-10	
科目コード	503-0123	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
白石建雄	工学資源学部	工資 2-B304・2652					
佐藤時幸	工学資源学部	工資 2-G212・2371					
山元正継	工学資源学部	工資 2-G306・2375					
オフィスアワー	曜日及び時間：木曜日，12：00～12：30			場所：工資 2-B304			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 地層記録を素材として，地球科学的自然認識方法，ならびに地球上で生起する諸現象とその自然史的展開を学び，歴史性を背負った存在としての地球に関する認識を深めることを目的とする。 2. 到達目標 1) 地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的変化ではなく，さまざまな事件で構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因の理解にもとづき，日常生活のあり方について考察できる。							
カリキュラム上の位置付け 本講義は目的・主題別科目のうち，「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたり，高校までの平均的知識のほか，特別な予備知識は前提しない。							
授業の概要と進行予定及び進め方 基礎編 1. ガイダンス 2. 地層は時計である；地質学的認識の基礎 3. 古生物の進化と地質時代区分；地質時代区分は何を根拠に行われているか 4. 年代を測る；地質時代の年数はどのようにして測定されているか 各論編 5. ワンダフルライフ—カンブリア紀の爆発—；高等動物大量出現の時，何が起こったか 6. 大量絶滅の謎；恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したのか 7. マグマのはたらき；火山噴火を起こすものの正体 8. 火山噴火のタイプ；火山噴火はどのように起こるのか 9. 地層の形成；地層のできかた 10. 気候は変動する；地層記録によれば，地球上の気候は驚くほど大規模に変化する 11. 地磁気は逆転を繰り返した 12. 地層の変形と地殻変動 総括編 13. 海洋底は拡大している；海洋底は大洋中央海嶺で形成され，水平方向に移動する 14. プレートテクトニクス地球表層で進行している基本過程 15. 日本列島はどういう所か；日本列島ではなぜ地震災害，火山災害が多いのか							
授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）	進化				
マグマ	火山噴火	地球環境変遷	プレートテクトニクス				
成績評価の方法及び合格判定基準 期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。							
教科書・参考書等 教科書は使用しない。毎回の講義にプリントを配付するとともに参考書を紹介する。							

授業科目名	和文：地球の環境と資源 V A－資源問題と地球環境－ 英文：Global Environment and Resources VA:Problems of Resources and Environment				時間割	月 3-4
科目コード	503-0163	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部 1～3年					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
佐藤 博	地球資源	工資 2-B214・2388	網田和宏	地球資源	工資 2-B212・2372	
高島 勲	工資研究施設	工資 研-204・2449	杉本文男	地球資源	工資 2-B215・2394	
村上英樹	工資研究施設	工資 研-207・2446	今井忠男	地球資源	工資 2-B214・2388	
山口伸次	地球資源	工資 2-B206・2387				
オフィスアワー	曜日及び時間： 随時			場所： 上記教員室		
授業の目的及び到達目標						
1. 目的 私たちが資源を入手し、それを利用するとき何が問題となるか、また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。この問題は、私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき常に何らかの形で関係してくるものであり、そのようなときにどう考えたらよいかを、この授業を通じて理解することを目標とする。						
2. 到達目標 1) 資源と地球環境についての社会的な関心を持つこと。 2) 資源と地球環境について様々な要因と異なる考え方があることを理解し、その解決手法について自らの意見を説明できること。						
カリキュラム上の位置付け						
社会的な問題である資源と地球環境についての教養とそれに対する自身の意見をもつこと。						
授業の概要と進行予定及び進め方						
第1回： 担当，佐藤 資源・エネルギー開発に伴って発生し、マスコミ等で取り上げられた環境問題を、新聞記事（和文，英文）に基づいて解説する。						
第2回： 担当，高島 自然エネルギー利用の現状と課題について解説する。						
第3回： 担当，村上 原子力エネルギーの可能性と問題点について解説を行う。特に、エネルギー政策としての利点、環境への影響、廃棄物処理問題等を中心に説明する。						
第4回： 担当，山口 石油エネルギーの現状と地球温暖化対策について説明する。						
第5回： 担当，網田 水資源の現状と水質汚染の問題について説明する。						
第6回： 担当，杉本 金属資源の開発，輸入，閉山後の環境問題について説明する。						
第7回： 担当，今井 人はこれまで「どのようにして鉱物を道具として利用してきたか」、「どのようにして有用な鉱物を発見し開発してきたか」、「それらに伴う環境問題とは何であったのか」について、身近な材料や道具を例にとりて考え，説明する。 また，レポート課題について説明する。						
第8回： 担当，今井 課題レポート提出日						
なお，都合により上記の講義の順番を入れ替えることもある。						
授業に関連するキーワード	資源の将来	資源リサイクル	資源開発の歴史			
環境・経済倫理	エネルギー資源	大気 CO2 と地球温暖化	資源開発技術			
成績評価の方法及び合否判定基準						
授業への参加度および課題レポートを総合して評価する。						
教科書・参考書等						

授業科目名	和文：天体観測入門－太陽・月・惑星－ 英文：Introduction to Astronomical Observation:				時間割	水 7-8	
科目コード	503-0050	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	1期前半
受講対象学生	1年次以上						
授業の形式	実習	備考	実習のほとんどは夜間に行われます。雨天曇天の場合は延期になります。 天体望遠鏡の台数が限られていること、安全管理の観点から受講生可能人数は20名程度となります。 受講規模応者多数の場合は抽選の可能性もあります。				
履修する際に前提とする授業科目名	なし						
内容的に密接に関係する授業科目名	なし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
林 信太郎	教文	3-311・889-2651					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 1-4 コマ			場所：教育文化学部 3-310				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 天体に親しみ、惑星科学・地球科学について学ぶ。 2. 到達目標 天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作でき、人に説明できる。 簡単な望遠鏡を作成できる。 太陽の自転を理解し、説明できる。 主な惑星の特徴と軌道を理解し、説明できる。 月の形成史を理解し説明することができる。							
カリキュラム上の位置付け 惑星科学、宇宙科学の教養的知識を得る							
授業の概要と進行予定及び進め方 天体の状況、天候の状況によって異なってくる。以下の内容を予定している。 ・天体望遠鏡の使い方 ・簡易天体望遠鏡の作成 ・月の地形の観察（5月中旬の晴れた夜） ・火星・土星の観察（5月中旬の晴れた夜） ・木星の衛星に関する演習 ・火星・金星の観察（7月上旬の晴れた夜） ・太陽黒点の観察・演習 天体の運行状況や天候によって左右されるので、実習が予定通りに進むとは限りません。夜間の実験が多く、場合によってはアルバイト等に支障を生じる場合もある。天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は考慮しない（できない）こととする。 また、前期の前半だけでは実習が終わらず、7月前半まで実習があります。 なお、授業の正規の時間帯で行う実習は2時間程度で時間のほとんどは夜間の観測とする。 受講上の注意：望遠鏡で太陽を見ないこと、また、屋上フェンスを飛び越えないこと。							
授業に関連するキーワード	天体望遠鏡	月	太陽				
惑星	黒点	火星					
成績評価の方法及び合否判定基準 レポートによる。 出席数が2/3に満たない場合は放棄とする。							
教科書・参考書等 授業の中で紹介する							

授業科目名	和文：環境と社会Aー地域環境とインフラストラクチャー 英文：Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure				時間割	木 7-8	
科目コード	503-0183	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2368	徳重英信	工学資源学部	工資 1-412 2367		
石井千万太郎	工学資源学部	総合研究棟 5F 教員ゼミ室 2361	及川洋	工学資源学部	工資 1-415 2360		
浜岡秀勝	工学資源学部	総合研究棟 7F 教員室 2974	高橋智幸	工学資源学部	工資 1-420 2884		
薄木征三	工学資源学部	工資 1-410 2357					
オフィスアワー 曜日及び時間：講義終了時にアポイントを取って下さい。 場所：各教員室							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例について履修する。 2. 到達目標 1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。							
カリキュラム上の位置付け 日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。							
授業の概要と進行予定及び進め方 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～5回：社会資本整備で不可欠な材料（コンクリート）について、特に環境にやさしいコンクリート施工 第6回：環境にやさしい木材（集成材）および長持ちする鋼材を用いた社会資本整備について 第7～8回：地盤災害と水環境							
授業に関連するキーワード	人間	社会的理念	社会基盤				
社会資本整備の理念	地盤災害	水環境					
成績評価の方法及び合否判定基準 レポート（30％）、グループ学習の成果（60％）、その他出席状況等（10％）を考慮して総合的に評価する。							
教科書・参考書等							

授業科目名	和文：心理学Ⅰ—心の科学史— 英文：Psychology I:Introduction to Psychology				時間割	月 3-4
科目コード	504-0010	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部1年生					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	受講希望者が150名を越えた場合には、抽選によって受講生を選抜する。					
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
中野良樹	教育文化学部	教5-402 2591				
オフィスアワー 曜日及び時間：金曜日 16:10~17:30			場所：研究室			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人間の心は知・情・意の機能が三位一体となることで成立するといわれる。本授業では、これら三つの機能について古典的な心理学の実験や理論を学び、それを踏まえて最近の脳科学などの知見に結びつけ、人間の心の有り様について理解、考察する。 2. 到達目標 1) 認知、記憶、感情などの機能について心理学の基本的な知見、理論を説明できる。 2) 人間の心の仕組み、行動の原理について自分なりの考えを述べられる。						
カリキュラム上の位置付け 認定心理士必修科目						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 心の科学への招待—ガイダンス 第1部 「知」の科学 2. 視覚の冒険—視覚情報処理 3. 人はいかにして世界を知るのか？(1)—形の知覚 4. 人はいかにして世界を知るのか？(2)—主観的輪郭と遮蔽 5. 人はいかにして世界を知るのか？(3)—立体視 6. 思い出をつくるメカニズム—短期記憶と長期記憶 7. 「忘れる」ことの幸せと不幸せ—記憶と忘却と健忘 8. 人間の賢さと愚かさ—思考 第2部 「情と意」の科学 9. 人間と動物の心に境界はあるのか？—条件づけの基本原則 10. 動物はどこまで賢くなれるか？—オペラント条件づけと動物実験 11. 人間を人間たらしめる心—作業記憶から自己意識 12. 心の進化の行く先—自己意識から創造性へ 13. 「こころ」と「あたま」と「きもち」—感情と認知の協調と競合 14. 私たちは悲しいから泣くのか、泣くから悲しいのか？—感情をめぐる議論 15. あなたたちは「こころ」を理解できたか？—試験						
授業に関連するキーワード	認知心理学	生理心理学	感情心理学			
心と脳						
成績評価の方法及び合否判定基準 授業中に2回～4回の抜き打ちレポートを実施する。レポートでは授業の内容を理解した上で自分なりの考えを述べられるかを評価する(到達目標2)。レポートを実施した授業に欠席した受講生は、翌週の授業で担当教員からレポート用紙を受け取り、その翌週の授業で提出する。これ以外の方法での提出は認めない。欠席が事前に報告されていない場合は、評価は大幅に下がる。最終週の試験では授業で取り上げた心理学の知見や理論に関して基本的な説明を求める(到達目標1)。レポートの評価と試験の点数をそれぞれ50%とし、総点が60点以上の受講生に単位を認める。						
教科書・参考書等 教科書 「グラフィック心理学」(サイエンス社) 参考書 「サブリミナル・マインド」 下條信輔著(中公新書)						

授業科目名	和文：教育学ⅠA－現代社会と教育－ 英文：Pedagogy IA:Modern Society and Education				時間割	火 7-8
科目コード	504-0151	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部1～3年生					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	
細川和仁	教育実践総合センター		佐藤修司	学校教育課程	教文5－509, 2541	
新井真人	学校教育課程	教文5－505, 2542	池田全之(賈)	学校教育課程	教文5－506, 2544	
浦野 弘	教育実践総合センター	教育実践総合センター, 2698	原 義彦	学校教育課程	教文5－507, 2545	
オフィスアワー 曜日及び時間：			場所：			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようを、教育哲学、教育史学、教育社会学、教育法学、社会教育学、教育工学等のさまざまな分野から分析を加える。 2. 到達目標 教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。						
カリキュラム上の位置付け 教育学関連科目の導入的位置にある。						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 教師学・教育技術学：(細川和仁) 2. 教育と社会：教育は人間が社会で生きていくためには不可欠である。人間は教育により文化を習得し多様な社会的存在へと形成されていく。人間は教育により社会化されていくとよい。ここでは教育社会学の立場から社会化のメカニズムに関する理解を深める。(新井真人) 3. 情報化社会におけるリテラシー：国は、2010年に「ユビキタスネットワーク社会」の実現を目指し「u-Japan 政策」を展開しようとしています。このように社会の情報化が進展する中、ヒトの情報処理過程を手がかりにして、「学ぶ」ということの意味と、メディア・リテラシーについて考える。(浦野 弘) 4. 教科書問題などを通じて国家と教育の関わりについて考察すると同時に、校則や体罰などの問題から学校と子供・親との関わりを学ぶ。(佐藤修司) 5. ヨーロッパ近代と理性の関係を、理性主義の限界と感性の復権の立場から論じ、現代人の故郷喪失、疎外状況を考察する。そして、同時に新しい人間理解のあり方を学ぶ。(池田全之) 6. わが国の社会情勢と生涯学習：構造改革が進展する中での生涯学習推進の現状と課題、および私たち一人ひとりの生涯学習のあり方について考える。(原 義彦)						
授業に関連するキーワード	教師と教育技術	教育的抵抗	社会化と逸脱行為			
コンピュータ・リテラシー	情報処理	近代的理性	生涯学習			
成績評価の方法及び合否判定基準 レポート、試験、出席等を総合して評価する。						
教科書・参考書等						

授業科目名	和文：教育学ⅡA—地域社会と子育て支援— 英文：PedagogyⅡA:Child care support in Local Community				時間割	木 3-4
科目コード	504-0156	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期前半
受講対象学生	全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし					
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし					
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
奥山順子	教育文化学部・発達教育講座		教文 5-308・889-2677			
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜日 5、6時限			場所：教文 5-308			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 ○ 近年、必要性が叫ばれている「子育て支援」を通して、子どもの発達や教育と、地域社会・家庭との関係やそれぞれが担う機能について考え、理解する。 ○ これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。 ○ 子どもが育つ環境への関心を持つ。 2. 到達目標 到達目標 ○ 保育・幼児教育にかかわる既存の施設や役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 ○ 現代の教育・子育てをめぐる諸課題に関心を持つ。 ○ 幼児教育・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。						
カリキュラム上の位置付け (2) 学問の体系						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 3. 幼稚園・保育所の機能■ 幼稚園とは・保育所とは。 保育所や幼稚園は、何を期待され、どのような役割を担ってきたのか。 4. 幼稚園・保育所の機能■ 幼児教育をめぐる諸課題 5. 幼児教育の独自性とは。 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的および実践の現状と課題について考える。 誰が誰を支援する？ 6. 少子化・過疎化と子育て～秋田県の保育事情 子育てをめぐる秋田県に特有の問題をとらえる。過疎地域の保育、新しい多世代家族の実情、幼保一元化、総合施設など 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、“ニーズに応じる保育”を、“ニーズを育てる”観点から検討し、これからの地域社会における子育てのあり方、親の役割を考える。						
授業に関連するキーワード	保育	地域	家庭			
子育て支援	幼児教育					
成績評価の方法及び合否判定基準 ・現在の保育・幼児教育の変化に関する問題意識 25% ・現代の教育・子育てをめぐる諸課題の理解 25% ・地域社会・家庭と保育とのかかわりに関する資料収集 25% ・自らの課題意識に基づいた考察 25% *小テスト、レポートによって評価する。						
教科書・参考書等 参考書 参考図書 前田正子『子育ては、いま——変わる保育園、これからの子育て支援』2003年、岩波書店 原田正文『子育て支援のNPO』2002年、朱鷺書房 鯨岡峻『<育てられる者>から<育てる者>へ——関係発達の視点から』2002年、NHKブックス						

授業科目名	和文：教育学ⅡB—地域社会と子育て支援— 英文：Pedagogy IIB:Child care support in Local Community				時間割	木 3-4	
科目コード	504-0157	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
奥山順子	教育文化学部・発達教育講座	教文 5-308・889-2677					
オフィスアワー 曜日及び時間：水曜日 5. 6時限 場所：教文 5-308							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 ○ 近年、必要性が叫ばれている「子育て支援」を通して、子どもの発達や教育と、地域社会・家庭との関係やそれぞれが担う機能について考え、理解する。 ○ これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。 ○ 子どもが育つ環境への関心を持つ。 2. 到達目標 ○ 保育・幼児教育にかかわる既存の施設や役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 ○ 現代の教育・子育てをめぐる諸課題に関心を持つ。 ○ 幼児教育・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。							
カリキュラム上の位置付け (2) 学問の体系							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能 2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係 3. 幼稚園・保育所の機能＝ 幼稚園とは・保育所とは。 保育所や幼稚園は、何を期待され、どのような役割を担ってきたのか。 4. 幼稚園・保育所の機能＝ 幼児教育をめぐる諸課題 幼児教育の独自性とは。 5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的および実践の現状と課題について考える。 誰が誰を支援する？ 6. 少子化・過疎化と子育て～秋田県の保育事情 子育てをめぐる秋田県に特有の問題をとらえる。過疎地域の保育、新しい多世代家族の実情、幼保一元化、総合施設など 7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、“ニーズに応じる保育”を、“ニーズを育てる”観点から検討し、これからの地域社会における子育てのあり方、親の役割を考える。							
授業に関連するキーワード	育児	地域	家庭				
子育て支援	幼児教育						
成績評価の方法及び合格判定基準 ・現在の保育・幼児教育の変化に関する問題意識 25% ・現代の教育・子育てをめぐる諸課題の理解 25% ・地域社会・家庭と保育とのかかわりに関する資料収集 25% ・自らの課題意識に基づいた考察 25% *小テスト、レポートによって評価する。							
教科書・参考書等 参考図書 前田正子『子育ては、いま——変わる保育園、これからの子育て支援』2003年、岩波書店 原田正文『子育て支援のNPO』2002年、朱鷺書房 鯨岡峻『<育てられる者>から<育てる者>へ——関係発達の視点から』2002年、NHKブックス							

授業科目名	和文：表現と人間 I A 一人・対話・対応 英文：Human Expressions IA:Human Relations				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0041	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～2 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
佐々木久長	医学部	884-6506					
オフィスアワー 曜日及び時間：			場所：				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人間関係に関する基礎的理論を学び、より良い人間関係が展開出来るようになる 人間関係がうまくいかない人に適切な支援ができるようになる 2. 到達目標 1. 人間関係の主体者としての自己理解を深める 2. 対人コミュニケーションの構造を理解する 3. 実際の対人関係の背景にある心理を理解する 4. 傾聴について理解し実践を試みる							
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 人間関係の主体者としての自己 2. 人間の存在性について 3. コミュニケーションについて 4. 傾聴について (1) 5. 傾聴について (2) 6. 受容と拒否 7. 援助と攻撃 8. 依存と自立 9. 家族という関係 10. 友情について 11. 個人と集団 12. 対人関係の健康と病理 13. テスト 14. 全体のとらえ							
授業に関連するキーワード	自己理解	他者認知	コミュニケーション				
傾聴							
成績評価の方法及び合否判定基準 定期試験 (80%) + 出席 (20%)							
教科書・参考書等 参考書 1) 吉森護編著 人間関係の心理学ハンディブック 北大路書房 2) 対人行動学研究会編 対人行動学ガイド・マップ プレイン出版							

授業科目名	和文：文学論A—教養読書基礎講義— 英文：Lecture on Literature A:Lecture on liberal reading				時間割	金 3-4	
科目コード	504-0061	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
成田 雅樹	教育文化学部	教3-139・2531					
オフィスアワー 曜日及び時間：曜日及び時間：月火木金曜日 12:50～16:00 場所：教育文化学部 3-139（電話：889-2531）							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 (1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。 (2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。 2. 到達目標 (1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。 (2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。 (3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。							
カリキュラム上の位置付け 目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標(1)と深く関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1 (4/11)回…オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」) 2 (4/18)～4 (5/2)回…明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較) 5 (5/9)～6 (5/16)回…大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「曇気楼」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較) 7 (5/23)～8 (5/30)回…大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「ゼロ弾きのゴージュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較) 9 (6/6)回…昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較) 10(6/13)～11(6/20)回…昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(以前の読後感との通時的比較・作家の人生と作品との比較) 12(6/27)～13(7/4)回…現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較) 14(7/11)回…現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較) 15(7/18)回…試験(レポート) ※ 2～4回、7～8回、12～13回はビデオを使用する。授業で扱う原作の中で、短編は授業時間内に読むこともある。ただし、2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つぐみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。 ※ ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。							
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度	ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ				
解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー	芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー	表層と深層及びメタファーとテーマ				
成績評価の方法及び合否判定基準 出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業中の取り組みに問題がない場合：C、出席及び提出物が数・内容ともほぼ完全な場合：B、Bの者で提出物の内容が優れ、授業の到達目標に十分達していると認められる場合：A。なお、C～Aは、到達目標の3観点について、授業中に解説した事柄を理解している場合：C、解説した事柄をふまえてそれ以外について考察している場合：B、Bの考察内容が優れて十分に目標に到達している場合：Aとする。配点は概ね、授業中の取組3.5点、提出物の内容3.5点、試験レポートの内容3.0点とする。追試・再試は行わない。							
教科書・参考書等 「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。 また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。							

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅰ－地域言語の諸相－ 英文：Cultures in Japan and Asia I:Aspects of the regional language in Japan			時間割	水 5-6
科目コード	504-0091	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～4年				
授業の形式	講義・演習・学生参加型	備考	演習形式の内容を含むため、受講者の上限を60名程度とします。第1回目の授業で上限を超えた場合は、その場で抽選を行います。第1回目の授業にやむを得ず出席できない場合は、授業の前に受講申込票を提出してください(上限を超えた場合、受講申込票提出者は、抽選の対象にします)。なお、教育文化学部国際言語文化課程の学生は優先的に受講を認めます(専門教育科目への連続性があるため)。		
履修する際に前提とする授業科目名	特になし				
内容的に密接に関係する授業科目名	日本とアジアの文化Ⅱ－言語と人間－ 日本・アジア文化調査実習(教育文化学部専門教育科目)				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
日高 水穂	教育文化学部 日本・アジア文化	教文3-135・2614			
オフィスアワー 曜日及び時間：火曜日 13:00～14:30 場所：教文3-135					
授業の目的及び到達目標 1. 目的 伝統方言の特徴と現在の地域言語の動態を的確に把握し、日本語の多様なあり方について理解する。 2. 到達目標 1) 現在の日本の方言差がどのようにして生じたのかを説明できる。 2) 現在の地域言語に見られる多様な言語変種の発生メカニズムを説明できる。 3) 方言の社会的地位の変遷について説明できる。 4) ことばの多様性をとらえるための調査法を習得し、得られたデータを分析できる。					
カリキュラム上の位置付け 教養教育科目〔目的・主題別科目〕の「人間発達と文化」科目。 学問の体系を理解し、学問の進展をはかることを主たる目的として設定。					
授業の概要と進行予定及び進め方 現在の地域言語は、標準語との接触により、変容を余儀なくされている。そこには、一方向的な標準語化だけでなく、方言と標準語の中間的な言語変種の発生や、伝統方言とも標準語とも異なる新しい言語形式の発生も見られる。こうした現在の地域言語の動態を、言語地図や方言談話の録音資料等を見ながら(聞きながら)とらえていく。さらに、標準語の成立過程、方言の社会的地位の変遷を見ることにより、現代社会における方言の機能について考える。 第1回 ガイダンス 第2回～第5回 全国方言の特徴と地域差・世代差・場面差 第6回～第9回 秋田方言の特徴と地域差・世代差・場面差 第10回～第13回 地域言語調査法〔演習〕 第14回 方言意識と方言の機能 第15回 まとめ 1～9・14・15回の授業は基本的に講義形式で行うが、言語地図の作成、ことばに関するアンケートへの回答など、作業を多く含む。10～13回の授業は情報端末を利用した演習形式で実施する。					
授業に関連するキーワード	方言周圏論	方言区画	標準語化(共通語化)		
新方言	疑似標準語	気づかない方言	方言コンプレックス		
成績評価の方法及び合否判定基準 受講態度(授業中の課題への取り組みなど)(50%) 課題の提出(50%) 《合否判定基準》総合的に評価して60点以上を合格とする。					
教科書・参考書等 教養教育科目授業用テキスト『地域言語の諸相』を使用。授業の際に配布する。					

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅱ－みんなの言語学、またの名を言語と人間－ 英文：Cultures in Japan and AsiaⅡ:				時間割	金 9-10	
科目コード	504-0101	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	日本文化基礎論Ⅰ／Ⅱ 日本語学 日本語の諸相						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
佐藤 稔	教文 日本・アジア文化	教文3-134・2613					
オフィスアワー 曜日及び時間：金曜日 昼休み			場所：教文 3-134				
授業の目的及び到達目標							
1. 目的 言語と人間の関わりを軸にして、日本語文化の特性を認識する。 特に、身のまわりの身近な事例に基づいて、言語の運用・コミュニケーションの機微 について学ぶ。 言語使用によって人間関係の円滑な構築・修復が出来るためにはどんな技能が必要かを考える。							
2. 到達目標 (1) 日本語文化が過去から継承してきた遺産、現状、および未来について、個人が 所属する集川におけることばの具体的な事象から考察する。 「ことばにはそれぞれ 通用範囲がある」という認識を確実なものとする。 (2) ことばの規範に対する意識をもち、言語運用上の技能を高める。							
カリキュラム上の位置付け 教養教育科目【目的・主題別科目】の「人間発達と文化」の1つとして設定。							
授業の概要と進行予定及び進め方							
1. みんなの「言語学」総論－ 1.1 ヒトとしての進化－ことばをもつことの意味－ 1.2 「ことば」のはたらき－思考と通達－ 1.3 「母語」の役割－なぜ重要なのか－ 2. 方言（地域語）の衰退と復興 2.1 年寄りと若者のことばの壁 2.2 モノの消失とことばの消滅 2.3 文化財？文化？ 2.4 方言昔話を実演する 3. 通用範囲の限られたことば （ジャルゴン） 3.1 若者専用語・キャンパスことば・ギャル語－すぐに古びてしまうことば－ 3.2 隠語・業界語－どこで使用されるか－ 3.3 学術用語・専門語－どんな世界があるか－ 4. 差別とことば 4.1 「差別語」は悪か？ 4.2 差別語を言い換える試み 4.3 差別語を無くすことは可能か？ 4.4 ジェンダーとことば－「男」と「女」の現在（いま）－ 5. 「敬語」社会に生きる 5.1 敬語が「正しく使える」とは？ 5.2 敬語の社会的機能 5.3 敬語チェッカー－あなたの敬語はだいじょうぶ？－ 5.4 理想の敬語 6. 日本語社会が抱える諸問題 6.1 日常茶飯事化する異文化との接触 6.2 通じないカタカナ語 6.3 誰のための略語？ 6.4 「経済力」と言語学習意欲との関係 6.5 マイノリティの言語状況 (以上、実施順序には変更があり得る)							
授業に関連するキーワード	言語	母語	差別語				
ジャルゴン	方言	敬語	言語文化				
成績評価の方法及び合否判定基準							
各回での発言、講義への出席状況、レポートによる。 出席は15回実施するもののうち3分の2を下回った場合、「放棄」と見なす。 また、授業終了時に提出する出席調査票には、その日の授業に関する感想、質問等を必ず記入すること。 レポートは、手書きの場合は読みやすい文字で、丁寧に書いて提出すること。紙型は A4サイズ。プリンタで印字の場合の紙型も、A4サイズ。1頁当たり40字×40行が望ましい。 なお、本年はメールによるレポート提出は受け付けない。							
教科書・参考書等							
教科書：なし。 参考書：教室で必要に応じて紹介する。 出来るだけレジュメとなるプリントを配付する。							

授業科目名	和文：日本とアジアの文化Ⅴ－東洋思想史－ 英文：Cultures in Japan and Asia V:History of Oriental Thought				時間割	木 1-2	
科目コード	504-0131	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	中国文化基礎論、中国文化論、中国史基礎論、アジア歴史文化論						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
吉永 慎二郎	日本・アジア文化	3-130 2609					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 7～8時限 場所：3-130							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 中国文明の思想史的展開とそれに関連する東洋諸文明圏における思想史的テーマについての理解を深め、今日のアジア、世界を見る方法的視座と知見を得ることを目的とする。 2. 到達目標 上記の思想史的テーマ及びそれに関連する知識や知見について理解し習得するとともに、今日のアジア、世界について自ら思考する糸口を把握する。							
カリキュラム上の位置付け 総合基礎教育の教養科目であるとともに、中国文化論（思想史）への導入としての位置づけをも持つ。							
授業の概要と進行予定及び進め方 一般的に考えられているほどに中国文明は他の影響と無関係に自足的に展開してきたわけではない。例えば、麦の生産・彩陶・青銅器・鉄器などの技術や知識はいずれも、西方から伝播している。また文字の伝播についても同様の指摘がなされている。高度技術の伝播はしばしば民族の移動と文明の融合と再生を伴う。歴史的にはそれは三つの大きな思想変革として把握しうる。一つは殷から周への王権交代（殷周革命）の際の天の思想の形成とその後の諸子百家の思想の展開と開花であり、二つは仏教思想の伝播による儒教的中華思想の相対化という衝撃とこれを受けての朱子学の形成であり、三つは西洋近代文明の衝撃と近代化（西洋文明の受容と近代国家の建設）への思想展開とである。本講義では、これらの思想史的テーマを西アジアや日本をも含めた東洋及びユーラシアの視座から考察を加え概説する。 1. ユーラシアと中国文明 2. 文字の伝播と漢字 3. 殷文化と帝の思想 4. 天の思想と周王朝 5. 天と孔子の思想 6. 天と墨家の思想 7. 天と孟子の思想 8. 老荘思想と帝 9. 秦の始皇帝と黄老思想及び法家思想 10. 儒教の国教化と易姓革命王朝 11. 仏教の伝来と道教の形成 12. 仏教と日本古代国家 13. 朱子学の形成と展開 14. 中国文明と近代化 15. テスト							
授業に関連するキーワード	文明の伝播と民族移動	文明と文化	地下型世界観と天上型世界観				
帝と天	諸子百家と儒教の国教化	仏教と道教と朱子学	近代化と現代化				
成績評価の方法及び合否判定基準 テスト及び平常点を総計して100点満点とし、60点以上を合格とする。テストは、その回答結果が授業内容の基本的理解と習得を示すものとなっているかどうか、また論理的に見解が記述されているかどうか、などが評価基準となる。 成績：100点～80点「A」、79点～70点「B」、69点～60点「C」、60点未満「D」 出席時数の取扱：「単位認定のきまり」による							
教科書・参考書等 宮崎市定『中国文明史』上・下（岩波全書）、ヴォルフラム・エーバーハルト『中国文明史』（筑摩書房）、森三樹三郎『中国思想史』（レグルス文庫）、加地伸行『儒教とは何か』（中公新書）、吉永慎二郎『戦国思想史研究－儒家と墨家の思想史的交渉－』（朋友書店）、中村元『バウダ・仏教』、山下龍二『朱子学と反朱子学』（研文社）、トーマス・ホップズ『リヴァイアサン』（岩波文庫）、山内得立『ロゴスとレンマ』（筑摩書房）、ヘンリー・フランクフォート『古代オリエント文明の誕生』（岩波書店）、福永光司『道教と日本文化』（人文書院）など。その他随時教室にて指示。							

授業科目名	和文：芸術と文化Ⅰ－日本の音楽文化－ 英文：Art and Culture I : Japanese Music				時間割	水 9-10	
科目コード	504-0187	必修・選択	選択	単位・時間数	2・15	開設学期等	1期
受講対象学生							
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	芸術と文化Ⅱ ー世界の音楽ー						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
武内 恵美子	音楽教育講座	2565					
オフィスアワー 曜日及び時間：月曜日 13:00～17:00			場所：教育文化学部2号館 206号室				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 日本の音楽の歴史を理解し、他国の音楽との相違を認識する。また音楽文化が社会に与える影響、果たす役割について理解する。 2. 到達目標 日本人のアイデンティティを持ち、日本の音楽について他者に説明し、議論できるようになる。							
カリキュラム上の位置付け 幅広い教養としての日本文化ならびに音楽の知識を身に付け、音楽文化に対し偏りのない柔軟な姿勢と判断力を培う。							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. ガイダンス、古代の音楽1 縄文～古墳時代の音楽文化、シルクロードの音楽 2. 古代の音楽2 雅楽・伎楽等 3. 古代の音楽3 声明 4. 中世の音楽1 舞の系譜 白拍子、曲舞、幸若舞 5. 中世の音楽2 能楽(猿楽) 6. 中世の音楽3 狂言 7. 中世の音楽4 田楽、平曲、風流、オラショ等 8. 近世の音楽1 歌舞伎 9. 近世の音楽2 文楽 10. 近世の音楽3 三味線音楽 11. 近世の音楽4 地歌箏曲、尺八等 12. 近代の音楽1 浪曲、唱歌、童謡 13. 近代の音楽2 浅草オペラ、宝塚歌劇団等 14. 現代の音楽 歌謡曲 15. 試験							
授業に関連するキーワード	日本音楽史	音楽	文化				
日本文化							
成績評価の方法及び合否判定基準 1. 試験70%、受講姿勢(含・出席点)30%により評価。 2. 全体の1/3(5回)以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 3. 注意をしても受講態度を改めない場合は当日の出席はカウントしません。 4. 30分以上遅刻の場合は欠席とみなします。 5. 何らかの事情により途中から受講できなくなる場合はその旨を連絡すること。 受講登録後に連絡なしで受講を取りやめ、試験を受験しなかった場合、 評価は「欠」ではなく「不可」になります。 6. 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。 7. 試験には授業中に配布したプリント、ノート他資料等の持ち込みを可とします。 8. 事情により試験を受けられなかった場合、申し出れば再試験を行います。 9. 追試験は行いません。							
教科書・参考書等 なし 授業でプリントを配布。							

授業科目名	和文：芸術と文化 III A—絵画にみる音楽と文学の照応— 英文：Art and Culture IIIA:Common Themes in Arts				時間割	木 5-6	
科目コード	504-0223	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～2年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	アジア美術表現論						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
猪巻 明	美術教育	教文 1-315・2556					
オフィスアワー 曜日及び時間：木曜日 16:00～18:00 場所：教文 1-315							
授業の目的及び到達目標 1. 目的 芸術の融合（文学、絵画、音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。 ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲、交響詩、舞踏曲、歌劇、楽劇、歌曲、童謡、歌謡曲、邦楽、その他）を比較しながら、作品の時代背景と、画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。 2. 到達目標 1) 近代の西洋音楽が文学（詩、小説、戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2) 西洋美術史の中で、イタリルネッサンス（15世紀）、フランスロココ王朝時代（18世紀）、フランス象徴派・印象派（19世紀）、イギリスラファエル前派（19世紀末）、ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭）、フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3) 日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え、その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して、説明できる。 4) 近代日本画の中には日本の歌（歌曲、童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ、この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して、説明できる。 5) 邦楽と浮世絵、近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対照により、日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して、説明できる。							
カリキュラム上の位置付け 絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により、一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。							
授業の概要と進行予定及び進め方 CD、ビデオ等（音楽）拡大投影機、スライド、ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。 1 レスピーギ「交響詩ポッティチェッリの三枚の絵」（春、東方三博士の礼拝、ヴィーナスの誕生） 2 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩海」ストラヴィンスキー「春の祭典」プーシェ「牧神とシューリンクス」 3 ラヴェル「タフニスとクロエ」シャガールが描いたパリ、オペラ座の天井画。ダフニスとクロエを描いた画家達 4 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 5 ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」モリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 6 R. シュトラウス「サロメ」モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリルネッサンス・フィレンツェ派の画家達 7 ドビュッシー「月の光」フォーレ「月の光」ラヴェル「草の上」ホフマン「舟歌」ラヴェル「夜のガスパール」ヴァトー「シテール島への船出」 銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽 8 ラフマニノフ 交響詩「死の島」ワーグナーとベックリン、ワーグナーの楽劇と絵画 9 マーラー「第1交響曲」クリムト三部作「哲学、医学、法学」とマーラーの第8交響曲 クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマーラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 10 ヴィバルディ「四季」暦絵とブリューゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 11 ブッチェニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 12 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 13 日本の歌と近代日本画作品 山田耕筰「この道」と山本丘人「残夢抄」 堂本印象「坂」 三浦文治「動物園行楽図」 14 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり、石川さゆり、小林幸子、その他 15 邦楽の世界、鈴木春信「白鷺」と坂東玉三郎の舞踊「白鷺」、鏑木清方「道成寺」と坂東玉三郎の舞踊							
授業に関連するキーワード	ルネッサンス	ディアギレフ	パンの会				
ロセッティ	オフィーリア	柳沢 健	越後獅子				
成績評価の方法及び合否判定基準 出席を前提とした、3回のレポート（全授業15回の授業において3題の課題をレポートで提出する）の評価 100%							
教科書・参考書等 毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。 参考書 種村季弘訳「象徴主義と世紀末芸術」 河村錠一郎著「ピアズリーと世紀末」 高階秀爾著「名画を見る眼」「ルネッサンスの光と闇」「美の回廊 ドラクロワからミロまで」							

授業科目名	和文：哲学の世界Ⅱ－科学史・科学哲学－ 英文：Philosophy II: History and Philosophy of Science				時間割	月 1-2
科目コード	504-0393	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生	全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号				
勝守 真	国際コミュニケーション	教文 3-228・2648				
オフィスアワー 曜日及び時間：			場所：			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 2. 到達目標 「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。						
カリキュラム上の位置付け						
授業の概要と進行予定及び進め方 雨はなぜ降るか？ 「水蒸気が凝結して水滴が集まって……」というのが、科学的な説明だとされる。しかし、たとえば、「雨が降るのは、大地がうるおって草木が育つためだ」と答えてはいけないのか？ たぶん、古代・中世の人々の多くはそのように答えただろう。自然を生きもののように見る近代以前の発想と、機械のように捉える近代科学の自然観は、いったいどちらが「正しい」のだろうか？ この授業では、科学思想の歩みを20世紀のアインシュタインやボーアまで歴史的にたどり、哲学的に考察する。						
授業に関連するキーワード						
成績評価の方法及び合否判定基準 試験						
教科書・参考書等						

授業科目名	和文：倫理と人間—人間とは何か— 英文：Human Ethics: What is Human Being?			時間割	木 5-6
科目コード	504-0265	必修・選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期
受講対象学生					
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名	特になし				
内容的に密接に関係する授業科目名	倫理学概論、西洋倫理思想史、比較倫理思想史				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
立花 希一	教育文化学部	教文 3-127・2608			
オフィスアワー 曜日及び時間： 火曜日 7 8 限（その他、授業、会議以外随時） 場所： 研究室					
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人間と人間社会に対する理解をめざす。 2. 到達目標 人間や人間社会に対するアプローチや見解の多様性を知り、自己の人間観、社会観を形成する足掛かりをつかむ。					
カリキュラム上の位置付け 民主主義社会においては個々人が自分なりの見識をもつことが求められるが、そうした市民たるに必要な教養教育科目である。					
授業の概要と進行予定及び進め方 授業の内容は概ね以下の通りである。 1. ガイダンス（教養教育と専門教育） 2. 定義（分類）について 3. 存在とは 4. 5. 人間とは（1）機械としての人間 6. 7. 人間とは（2）生物としての人間 8. 9. 心の出現（創発） 10. 人間とは（3）理性的存在者としての人間 11. 人間とは（4）自然と人為 12. 人間とは（5）個人と社会 13. 人間とは（6）人間と教育 14. テスト 15. テスト返却（解説）					
授業に関連するキーワード	人間	動物	自律		
理性	自然と人為	社会	自己		
成績評価の方法及び合否判定基準 9回以上の出席で、期末試験を受ける資格が生じる。9回未満は自動的に単位取得ができないので注意すること。成績評価は試験による。首尾一貫した思想を自分の言葉でどの位表現できるかが基準となる。					
教科書・参考書等 教科書なし。プリントを用意する。参考文献は多数あるので、講義でプリントを渡す。					

授業科目名	和文：情報と知識・技術A－実際に役立つ学習技術－ 英文：Information Processing A:Actually Useful Study Technology			時間割	火 5-6
科目コード	504-0287	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15
受講対象学生	全学部 全学年				
授業の形式	講義・演習	備考	50名以内		
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	図書館概論, 図書館サービス論, 図書館経営論				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
附属図書館長	附属図書館	2282			
オフィスアワー 曜日及び時間：		場所：			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人類が蓄積した膨大な図書情報, 最新の専門分野の論文情報, 現代社会の各種情報を各自の勉学や卒業研究を含めた知的活動に役立てるため, 秋田大学及び全国の大学の図書及び専門論文データベースの構成並びにインターネットの概念などを理解すると共に各種検索システムを利用して目的の情報を効率的に得る方法を学ぶ。また, 調査収集した情報を解析, まとめてレポートを作成する方法を学ぶ。 2. 到達目標 1) 秋田大学の図書検索システムの概要を簡単に説明できると共に, システムを利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 2) 全国の大学図書館等の蔵書検索システムを利用し必要な資料を検索できる。 3) 各種データベースから情報や論文を検索できる。 4) インターネット上の検索エンジンを利用した情報検索ができる。 5) 任意のテーマについて, 上記手法により情報を収集し, 調査研究すると共に, 結果をレポートにまとめることができる。					
カリキュラム上の位置付け 課外の学習を進めるに当たって, 図書館の利用, 即ち図書情報の利用に習熟することは必要不可欠であり, その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また, 教育文化学部における, 学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。					
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 図書館情報学概論 (附属図書館長) 講義：学術情報全般についての概論 (大学での勉強の仕方ーアカデミックスキルーを具体的に教えます) 講義内容全般に関するガイダンス 2. 秋田大学附属図書館で所蔵の図書・雑誌の検索方法 解説・演習 (図書館職員) Web版OPAC (秋田大学附属図書館蔵書目録) の使い方 3. 全国大学図書館等所蔵の図書・雑誌の検索方法 解説・演習 (図書館職員) 1) WebCAT (全国大学図書館蔵書検索) の使い方 2) NDLOPAC (国立国会図書館蔵書検索) の使い方 4. 各種データベースによる雑誌論文の検索方法 解説・演習 (図書館職員) 1) 論文情報ナビゲータ (CiNii) の使い方 2) その他のデータベースの使い方 5. インターネットの活用 解説・演習 (図書館職員) 1) オンラインジャーナルの活用 2) 秋田大学附属図書館ホームページを活用した学術情報の検索 6. レポート・論文のまとめ方 (附属図書館長) レポートあるいは論文の具体的な作成方法やプレゼンテーションの仕方を分かりやすく教えます 7. 試験 (附属図書館長)					
授業に関連するキーワード	情報検索	インターネット	図書館		
成績評価の方法及び合格判定基準 評価：100点満点とし授業への取り組み (30%) と試験 (70%) により評価します。 出席日数 (試験日を除く) が2/3に満たない者は試験を受けられません。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行いません。					
教科書・参考書等 「秋田大学情報探索ガイドブック 2008」					

授業科目名	和文：障害と共生 I A—福祉と人権— 英文：Mainstreaming of People with Disabilities IA:Disabilities and co-existence				時間割	月 7-8
科目コード	505-0063	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等 1期後半
受講対象学生	全学部					
授業の形式	講義	備考				
履修する際に前提とする授業科目名						
内容的に密接に関係する授業科目名						
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号			
内海 淳	障害児教育		教文 4-511・2548			
オフィスアワー 曜日及び時間：月—金 12:00—12:50 場所：教文 4-511						
授業の目的及び到達目標 1. 目的 1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。 2. 到達目標 1) 障害者問題は身近な問題であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。						
カリキュラム上の位置付け						
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 障害の概念と障害者の現状 2. 障害者福祉の理念：ノーマライゼーション 3. 障害者福祉施策の特質 4. 障害者福祉の仕組みと現状 5. 障害者への人権侵害 6. 障害者の権利擁護 7. 権利擁護としての当事者活動						
授業に関連するキーワード	障害者	障害者福祉	ノーマライゼーション			
人権侵害	権利擁護	当事者活動				
成績評価の方法及び合否判定基準						
教科書・参考書等						

授業科目名	和文：障害と共生Ⅱ－自立と暮らし－ 英文：Mainstreaming of People with Disabilities II: Disability and Coexistence - Independent Living -			時間割	火 3-4
科目コード	505-0070	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30
受講対象学生	全学部1～3学年				
授業の形式	講義	備考			
履修する際に前提とする授業科目名					
内容的に密接に関係する授業科目名	「障害と共生Ⅰ」と関連する授業である。				
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号			
大城英名	教育文化学部	教文4－510・2534			
オフィスアワー	曜日及び時間：講義時間以外随時		場所：大城研究室		
授業の目的及び到達目標					
1. 目的 障害があってもなくても、みんなと共に暮らし、働き、生きていくことのできる「共生の社会」のたいせつさを理解する。					
2. 到達目標 1) 障害のある人びとにとっての「自立」とは何か理解することができる。 2) 障害のある人もない人も「共に生きる社会」がノーマルであることを理解することができる。 3) 障害の「医学モデル」のみならず「社会モデル」の重要性について説明することができる。					
カリキュラム上の位置付け					
教養教育科目「人間と人権」の「障害と共生」の1つとして設定。					
授業の概要と進行予定及び進め方					
授業では、障害のある人びとが社会で自立的に生きていくドキュメンタリーを取り上げながら、障害がある人々もない人々も「共に生きる社会」が大切であることの理解を深める。					
第1回 オリエンテーション					
第2回 障害があってもなくても：ヘレン・ケラー、ナターシャ・クルイラトワほか					
第3回 障害があってもなくても：高橋竹山（津軽三味線奏者）					
第4回 共生への道：出会わなければはじまらない					
第5回 共生への道：自立へのはばたき					
第6回 共に育つ：母よ嘆くなかれ（パール・バック、「大地」）					
第7回 共に育つ：親、兄弟、家族の悩みと喜び					
第8回 支えあう社会：全盲の夫婦の子育て					
第9回 支えあう社会：知的障害の夫婦の結婚					
第10回 地域で共に暮らす：家族とくらす					
第11回 地域で共に暮らす：グループホーム・施設でくらす					
第12回 地域で共に暮らす：ひとりでくらす					
第13回 地域で共に暮らす：夫婦でくらす					
第14回 共に働く：あなたと一緒に働きたい					
第15回 共に働く：働くことと生きること					
*授業の実施順序および内容を若干変更するときがある。					
授業に関連するキーワード	障害	共生	ノーマライゼーション		
自立生活	地域生活	就労	リハビリテーション		
成績評価の方法及び合否判定基準					
出席状況 40 %、毎回の小レポート 60 %、総合的に評価し 60 点以上を合格とする。					
教科書・参考書等					
<ul style="list-style-type: none"> パール・バック：母よ嘆くなかれ、法政大学出版 ヘレン・ケラー：奇跡の人、新潮文庫 松村公宏：ダウン症の子をもって、新潮文庫 高橋竹山：津軽三味線ひとり旅、中央文庫 					

授業科目名	和文：人権と共生 I A－日本史上の差別と被差別－ 英文：Human Rights IA:History of Minorities in Japan				時間割	集中	
科目コード	505-0043	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考	別途掲示により通知				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
熊田 亮介	文化環境		教文 3-337・2668				
オフィスアワー 曜日及び時間：木 14:30～17:30			場所：教文 3－337（電話：889-2668）				
授業の目的及び到達目標 1. 目的 被差別部落・ハンセン病・異民族・少数民族など、日本史上における多様で広範な差別・被差別の歴史的構造とその特質を検証し、差別解消への取り組みの歴史的経緯とあるべき社会像について考える。 2. 到達目標 講義で取り上げる問題について、関係文献を読み、多様な視点から検討を加えて、自分の意見を取りまとめる。							
カリキュラム上の位置付け 							
授業の概要と進行予定及び進め方 1. 現代日本における偏見と差別 2～3. 沖縄から／沖縄へ ウチナーとヤマトンチュー、沖縄人にとっての歴史を検証し、その歴史的・現代的課題について考える。 4～5. ハンセン病と被差別民 ハンセン病と被差別部落の歴史をたどり、その歴史的・現代的課題について考える。 6～7. アイヌ民族と在日朝鮮・韓国人 アイヌ民族と在日朝鮮・韓国人の歴史をたどり、その歴史的・現代的課題について考える。 8. ケガレとキヨメ、異化と同化							
授業に関連するキーワード	偏見	差別	マイノリティー				
成績評価の方法及び合否判定基準 各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。							
教科書・参考書等 教科書は使用せず、授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する。							

授業科目名	和文：人権と共生ⅡA－教育と人権－ 英文：Human RightsⅡA:Education and Human Rights				時間割	火 7-8	
科目コード	505-0103	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属		学内室番号・電話番号				
佐藤修司	教育文化学部		5-509・2541				
オフィスアワー			曜日及び時間：金曜日16:00～17:00		場所：教育文化学部5-509		
授業の目的及び到達目標 1. 目的 教育の場面を中心にしながら、人権を考える視点を学ぶ 2. 到達目標 教育における、親、子ども、教師、住民、国家などの様々な主体間の権利・義務関係を理解し、具体的場面での人権問題への視点、対処方法などを習得する。授業を通じて、自らのこれまでを振り返り、これからの展望することで、「自分くずしと自分づくり」を考える視点を獲得する。							
カリキュラム上の位置付け 教育文化学部の基礎科目である生涯学習論2・3や、専門科目である教育文化行政論などの基礎に位置付くとともに、全学部学生にとっての基本的、社会的な教養としても位置付く。							
授業の概要と進行予定及び進め方 管理主義、能力主義といった教育の原理的問題と人権との関係を高sつし、教育課程や生徒・生活指導などの教育実践における人権の問題を検討し、さらに、人権教育、平和教育の問題についても考える。 1. 教育における管理主義：体罰をめぐって 2. 教育における管理主義：校則をめぐって 3. 教育における能力主義：受験競争をめぐって 4. 教育における人権問題：いじめをめぐって 5. 教育における人権問題：不登校をめぐって 6. 教育における平和と戦争							
授業に関連するキーワード	人権教育	平和教育	管理主義				
能力主義							
成績評価の方法及び合否判定基準 出席(20%)、履修表(20%)、レポート(30%)、最終試験(30%)							
教科書・参考書等 参考書：佐藤修司著『教育基本法の理念と課題』学文社 佐藤広美編『21世紀の教育をひらく』緑陰書房 浪本・三上『「改正」教育基本法を考える』北樹出版							

授業科目名	和文：医学と健康ⅡAー子供の発達と健康ー 英文：Medical Science and HealthⅡA:Development and Health of childhood					時間割	火 5-6
科目コード	505-0083	必修・選択	選択	単位・時間数	1・7	開設学期等	1期後半
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号		
小山田美香	医学部・小児科	884-6159	小林寛幸	秋田県中央児童相談所	862-7311		
高橋志穂子	医学部・小児科(臨床心理士)	884-6159	武田一幸	秋田家庭裁判所	824-3121		
渡部泰弘	医学部・小児科	884-6159					
田口睦子	秋田県教育庁特別支援教育課	860-5135					
オフィスアワー 曜日及び時間：				場所：			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 1) 小児の正常な身体的・心理学的成長発達を理解する 2) 小児の成長発達を促すためにどんな事が必要なのかを理解する 3) 発達障害について理解する 4) 学校における特別支援教育について理解する 5) 少年非行の現状と対応について理解する 6) 児童虐待の現状と対応について理解する 2. 到達目標 1) 小児の正常な身体的・心理学的成長発達過程について、基本的な知識を説明できる 2) 小児の成長発達を促す具体的な方法を説明できる 3) 自閉症スペクトラム・ADHDなどの発達障害の概念と一般的対応について説明できる 4) 特別支援教育の概要について説明できる 5) 少年非行への対応について、基本的な知識を説明できる 6) 児童虐待への対応について、基本的な知識を説明できる							
カリキュラム上の位置付け 子どもの発達について、医学・教育・福祉のさまざまな観点から理解する事を目的とする							
授業の概要と進行予定及び進め方 こどもを取り巻く環境は近年大きく変化しており、健康という概念そのものも変化していると言っても過言ではない。医療においては感染症中心の対応から生活習慣病・心の問題への注目が大きくなっているし、教育においては社会の変化・多様化の中で学校教育に求められるものも変わってきており、スクールカウンセラー制度や特別支援教育など新たな取り組みが行われてきている。そうした心理・社会的な状況までを踏まえた「こどもの発達」を理解するために、以下のコースを開講する。 6月17日 小山田美香(医学部・小児科)： こどもの発達(1) 医学的な成長発達 6月24日 高橋志穂子(医学部・小児科臨床心理士)： こどもの発達(2) 心理学的な成長発達 7月1日 渡部泰弘(医学部・小児科)： 発達障害の理解と対応(1) 7月8日 渡部泰弘(医学部・小児科)： 発達障害の理解と対応(2) 7月15日 田口睦子(秋田県教育庁特別支援教育課・指導主事)： 特別支援教育の現状と取り組み 7月22日 小林寛幸(中央児童相談所・児童心理司)： 児童虐待の現状と取り組み 7月29日 武田一幸(秋田家庭裁判所・主任調査官)： 少年非行の現状と取り組み							
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法及び合否判定基準 出席回数、授業態度							
教科書・参考書等							

授業科目名	和文：医学と健康 III A－加齢と保健医療－ 英文：Medical Science and Health IIIA:aging and health care				時間割	木 3-4																																																																																																
科目コード	505-0091	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等 1期																																																																																																
受講対象学生	全学共通 1・2年																																																																																																					
授業の形式	講義	備考																																																																																																				
履修する際に前提とする授業科目名																																																																																																						
内容的に密接に関係する授業科目名																																																																																																						
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号																																																																																																				
浅沼義博	医学部保健学科	C-102・6524																																																																																																				
ほか看護学専攻教員																																																																																																						
オフィスアワー 曜日及び時間：適宜担当教官と連絡			場所：適宜担当教官と連絡																																																																																																			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 1) 加齢に伴う身体的精神的变化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。 2. 到達目標 1) 加齢に応じた健康保持法, 医療への関わり, 医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し, 高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について, 具体的に問題提起し考察することができる。																																																																																																						
カリキュラム上の位置付け 加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。																																																																																																						
授業の概要と進行予定及び進め方 <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:10%">担当</td> <td style="width:40%">講義の内容</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>1. 宮本郁子：地域・老年看護学講座</td> <td>4/10/08 高齢社会における保健医療の現状と課題 (1)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>2. 宮本郁子：地域・老年看護学講座</td> <td>4/17 高齢社会における保健医療の現状と課題 (2)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>3. 宮本郁子：地域・老年看護学講座</td> <td>4/24 高齢社会における保健医療の現状と課題 (3)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>4. 百田芳春：基礎看護学講座</td> <td>5/8 加齢と身体機能変化 (1)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>5. 煙山晶子：地域・老年看護学講座</td> <td>5/15 高齢者ケア</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>6. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座</td> <td>5/22 高齢者の心のケア (1)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>7. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座</td> <td>5/29 高齢者の心のケア (2)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>8. 柳屋道子：地域・老年看護学講座</td> <td>6/5 障害者と加齢 (1)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>9. 柳屋道子：地域・老年看護学講座</td> <td>6/12 障害者と加齢 (2)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>10. 水沼秀夫：基礎看護学講座</td> <td>6/19 加齢と栄養 (1)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>11. 水沼秀夫：基礎看護学講座</td> <td>6/26 加齢と栄養 (2)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>12. 百田芳春：基礎看護学講座</td> <td>7/3 加齢と身体機能変化 (2)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>13. 浅沼義博：臨床看護学講座</td> <td>7/10 加齢と手術</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>14. 兒玉英也：母子看護学講座</td> <td>7/17 中・高年女性の健康問題</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>15. テスト</td> <td>7/24 記述式テスト</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table>							担当	講義の内容					1. 宮本郁子：地域・老年看護学講座	4/10/08 高齢社会における保健医療の現状と課題 (1)					2. 宮本郁子：地域・老年看護学講座	4/17 高齢社会における保健医療の現状と課題 (2)					3. 宮本郁子：地域・老年看護学講座	4/24 高齢社会における保健医療の現状と課題 (3)					4. 百田芳春：基礎看護学講座	5/8 加齢と身体機能変化 (1)					5. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	5/15 高齢者ケア					6. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	5/22 高齢者の心のケア (1)					7. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	5/29 高齢者の心のケア (2)					8. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	6/5 障害者と加齢 (1)					9. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	6/12 障害者と加齢 (2)					10. 水沼秀夫：基礎看護学講座	6/19 加齢と栄養 (1)					11. 水沼秀夫：基礎看護学講座	6/26 加齢と栄養 (2)					12. 百田芳春：基礎看護学講座	7/3 加齢と身体機能変化 (2)					13. 浅沼義博：臨床看護学講座	7/10 加齢と手術					14. 兒玉英也：母子看護学講座	7/17 中・高年女性の健康問題					15. テスト	7/24 記述式テスト				
担当	講義の内容																																																																																																					
1. 宮本郁子：地域・老年看護学講座	4/10/08 高齢社会における保健医療の現状と課題 (1)																																																																																																					
2. 宮本郁子：地域・老年看護学講座	4/17 高齢社会における保健医療の現状と課題 (2)																																																																																																					
3. 宮本郁子：地域・老年看護学講座	4/24 高齢社会における保健医療の現状と課題 (3)																																																																																																					
4. 百田芳春：基礎看護学講座	5/8 加齢と身体機能変化 (1)																																																																																																					
5. 煙山晶子：地域・老年看護学講座	5/15 高齢者ケア																																																																																																					
6. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	5/22 高齢者の心のケア (1)																																																																																																					
7. 鈴木圭子：地域・老年看護学講座	5/29 高齢者の心のケア (2)																																																																																																					
8. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	6/5 障害者と加齢 (1)																																																																																																					
9. 柳屋道子：地域・老年看護学講座	6/12 障害者と加齢 (2)																																																																																																					
10. 水沼秀夫：基礎看護学講座	6/19 加齢と栄養 (1)																																																																																																					
11. 水沼秀夫：基礎看護学講座	6/26 加齢と栄養 (2)																																																																																																					
12. 百田芳春：基礎看護学講座	7/3 加齢と身体機能変化 (2)																																																																																																					
13. 浅沼義博：臨床看護学講座	7/10 加齢と手術																																																																																																					
14. 兒玉英也：母子看護学講座	7/17 中・高年女性の健康問題																																																																																																					
15. テスト	7/24 記述式テスト																																																																																																					
授業に関連するキーワード	加齢	保健医療	健康																																																																																																			
ケア	栄養	障害	身体機能変化																																																																																																			
成績評価の方法及び合否判定基準 講義出席状況 (2/3 以上) を満たした上で, 学習意欲・態度 (10%), テスト (90%)																																																																																																						
教科書・参考書等 特に, 指定しない。																																																																																																						

授業科目名	和文：医学と健康 IV A—再生医工学— 英文：Medical Science and Health IVA:Tissue Engineering				時間割	水 5-6	
科目コード	505-0131	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							
担当教員名	所属	学内室番号・電話番号					
杉山俊博	構造機能医学講座	018-884-6074					
濱田文男	分子機能化学	018-889-2440					
オフィスアワー		曜日及び時間： 随時		場所： 医学部構造機能医学（生化学第一）講座			
授業の目的及び到達目標 1. 目的 人体組織の培養・加工技術は急速に進歩し、皮膚や骨などでは、傷害された組織の再生が可能となりつつある。医学と工学との融合領域である「再生医工学」を理解する。 2. 到達目標 1) 再生医療の現状を説明できる。 2) 組織の再生には細胞・足場・増殖因子が必要であることを説明できる。 3) 臓器再生の例をあげ、作製法を説明できる。 4) 再生医療の倫理的問題点を説明できる。							
カリキュラム上の位置付け 再生医工学 (Tissue Engineering) は、細胞生物学の知識とバイオマテリアル (生体材料) の技術を必要とする医学と工学の融合領域である。最近、特にヒトの細胞を用いた iPS という画期的な万能細胞が作成された。我が国においては、再生医工学の研究は今後ますます盛んになってくるとと思われる。							
授業の概要と進行予定及び進め方 第1回 4月9日 「再生医工学の生い立ちと展望」 杉山 第2回 4月16日 「人体再生医学」「体はどこまで再生できるか」 杉山 第3回 4月23日 「生命誕生の現場—人工臓器・胎児細胞利用の衝撃—」「クローン動物複製?人間は何を作りだすのか?」 杉山 第4回 4月30日 「幹細胞を用いた再生医学」 杉山 第5回 5月7日 「再生医工学におけるバイオマテリアル」 濱田 第6回 5月14日 「臓器移植・動物からヒトへ」 杉山 第7回 5月21日 「人間がコピーされる日—クローン技術の光と陰」 杉山							
授業に関連するキーワード	再生医工学	人工臓器	バイオマテリアル				
ES細胞	幹細胞	クローン技術	iPS				
成績評価の方法及び合格判定基準 毎回講義終了時に講義内容をまとめたレポート及び課題レポートを提出し、これらを総合的に評価する。試験は行わない。出席は3分の2を必要とする。							
教科書・参考書等 「人体再生」立花 隆 (中央公論新社) 「再生医学—失った体はとりもどせるか—」 筏 義人 (羊土社) 「ES細胞—万能細胞への夢と禁忌」 大舘 博 (文春新書) 「再生医学・再生医療」 室田誠逸編、現代化学増刊41 (2002) 「バイオ人工臓器—人体の再生術はここまで進んだ?」 (日経サイエンス1999年7月号) 「人体をつくる再生医療の挑戦」 (日経サイエンス2003年6月号) 「絵とき再生医学入門」 朝比奈ほか著、羊土社 (2004)							